



列車が通らなくなった高千穂鉄道の「むかばき駅」に、今年も満開の桜が

ごあいさつ

田口雄二

春爛漫の心地良い季節を迎えましたが、皆様方がお過ごしでしょうか。昨春、県議会に送り出していただき、早いもので1年を迎えました。東国原知事の誕生でこれまでと一変して、宮崎県や県議会がこれほどクローズアップされたことはなく、いろんな意味でまさに激動の1年で、貴重な経験をさせていただきました。この1年の4回の定例議会で3回の一般質問をさせていただき、県全般や県北地区の課題について、知事や県当局に質問や提言を投げかけました。

さて19年度最後の2月定例議会では、東国原知事にとって初の通年予算となる平成20年度予算案を主に審議いたしました。知事効果で宮崎の何もかもがうまくいっているかのようにみえますが、予算の内訳は7年連続減の約5591億円、前年比約57億円減の大変厳しい緊縮予算です。県債(借金)残高の増加は抑えることができましたが、その分、基金(貯金)を大きく取り崩して予算編成がなされました。基金残高も213億円とほんのわずかとなり、枯渇寸前になってしまいました。行財政改革をさらに進め、本格的な宮崎の改革はまさにこれからです。痛みを伴う改革も出てきますが、県民の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、県議会活動も2年目に入りました。「志は高く、そして目線は低く」をモットーにこれからも精進してまいります。叱咤激励をよろしくお願いいたします。



2月議会での質問

平成20年度予算の基本的な考え方

財政改革を推進しつつ、存在感のある自治体となることを目指し、優先度が高く、特色ある施策は積極的に取り組む、「**オンリーワンの宮崎を目指して～宮崎再生推進予算**」として編成されました。

1) 財政改革の着実な実行

「県行財政改革大綱2007」の財政改革プログラムの着実な実行

2) 「新みやざき創造戦略」に基づく重点施策の推進

重点施策 ①中山間地域・植栽未栽地対策 ②子育て・医療対策 ③建設産業対策

3) 県民目線による見直し・県民総力戦による実効

事業仕分け委員会をはじめ県民の意見や評価等を参考に、全事業について県民目線で見直し、事業を再構築。ボランティアや民間との協働に積極的に取り組み、県民総力戦で新しい宮崎県づくりを推進



2月議会で、民主党は権藤梅義議員が代表質問、私が一般質問をいたしました。一般質問の一部と関連の新聞記事をご紹介します。

質問項目

- 1. 知事の政治姿勢
- 2. 医療福祉行政
- 3. 工業振興
- 4. 公共工事の契約解除
- 5. 観光対策
- 6. 教育行政

知事の政治姿勢

【質問】 昨年末、2008年度以降10年間の道路整備の方向性が示される「道路の中期計画」の素案が、国土交通省から示された。この計画に対して知事の所見を伺いたい。

【知事】 地方の実情や道路整備に対するニーズ

を把握したうえで、「地域の自立と活力の強化」や「安心安全の確保」などの政策課題を掲げ、その実現に向けた目標・方針が具体的に取りまとめられており、一定の評価をしている。本県の未着工の高速道の整備の重要性も示され、大きな前進である。私は採算性や費用対効果だけではなく、様々な整備効果や地域生活に配慮した優先順位基準を明確にさせていただきたいと考えております。

宮崎日日新聞(2008年3月6日)



県立延岡病院

循環器医1人確保

熊本大医局が後任派遣

県立延岡病院(楠元志都生院長)の循環器科医五人のうち三人が退職意向を示している問題で、後任の医師一人の確保にめぐみが立ったことが五日、分かった。県議会一

般質問で、田口雄二議員(民主、延岡市区)の質問に植木英範病院局長が答えた。(4面に一般質問詳報)

同病院循環器科に熊本大医局から派遣される四人の常勤医の中で、二人が大学の意向で、三月と六月末に退職する旨を申し出ている。こ

のうちに、三月末に退職する常勤医の後任を、同医局が派遣することになった。県は、六月に退職予定の常勤医の慰留に努める一方、同医局を含む複数の大学病院に医師派遣を要請している。

また、同科には自治医大出身の研修医二人も動

めどが立ったことが五日、分かった。県議会一

般質問で、田口雄二議員(民主、延岡市区)の質問に植木英範病院局長が答えた。(4面に一般質問詳報)

同病院循環器科に熊本大医局から派遣される四人の常勤医の中で、二人が大学の意向で、三月と六月末に退職する旨を申し出ている。こ

のうちに、三月末に退職する常勤医の後任を、同医局が派遣することになった。県は、六月に退職予定の常勤医の慰留に努める一方、同医局を含む複数の大学病院に医師派遣を要請している。

工業振興について

【質問】 本県は道路、鉄道、海上輸送等の利便性、輸送能力、コストに大きなハンディーを持っている。企業誘致や地場産業の活性化に物流体制の整備が不可欠。トラックから鉄道などに転換する地球に優しい「モーダルシフト」の推進がいま求められていますが、JR貨物輸送の現状と充実の取り組みについて伺いたい。

【地域生活部長】 低コスト、大量輸送が可能であり、効率的な物流体制の整備を図る上で、大変重要な輸送手段である。しかし、貨物量の減少から現在の貨物列車の発着は延岡駅のみとなっている。鉄道貨物の輸送力の充実を図るには、まず荷物量を増やすことが課題となるが、現在、県内の産業界においてJR貨物の活用に向けた検討が行われている。県はこうした産業界の動きとも十分連携を図りながら、鉄道貨物輸送の

当初予定より大幅ずれ込む

県

延岡市夏田地区 排水ポンプ工事 2度も業者が倒産

県が五ヶ瀬川河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)で進める延岡市夏田地区の排水ポンプ設置工事が、二度にわたる市内建設業者の倒産で稼働が当初の六月から十月末と大幅にずれ込むことが五日、分かった。県議会定例会一般質問で、田口雄二議員(民主、延岡市区)に野口宏一県土整備部長が答えた。同部長は「地元の皆様への期待に応えることができない限り、残念を申し訳ないかわり、作業の効率化などに努め一日でも遅れも取り戻したい」と述べた。

権ヶ丘、夏田町、尾崎町、祝子町からなる夏田地区は、平成十七年九月の台風14号で地区内を流れる蛇谷川がはんらんし、床上、床下合わせて四百八十六戸が浸水被害に遭った。排水ポンプは、蛇谷川と祝子川の合流部に設置。大雨でたまった内水を本流の祝子川にくみ出し、浸水被害を軽減させる。

県は「今年七月、十七年度末に着工し、二十年の出水期前の運転開始を目指す」としていた。ところが、昨年夏に最初の建設業者が倒産。その後、別の業者の受注を受け、県は年明けの一月二十五日に地元説明会を開き理解を求めた。この業者も倒産。現在は市外の業者が工事担当に当たっている。

田口議員が昨年の十一月定例会で取り上げた際、野口部長は「作業時間の延長などで遅れの取り戻しに努めているが、運転可能となるのは九月末」との見通しを示していた。

さらに一月遅れる状況に、田口議員は「台風14号時と比べても大幅に宅地造成が進み、遊水地が激減している。今までと同じ雨量でもかなりの遅れ被害が出ることも考えられる。災害シナリオに間に合わない」とな

れば、もしもの事態にどう対処するか」と迫った。野口部長は「出水期に備え、祝子川から蛇谷川への逆流防止のため、止水壁を設置したい。併せて樋門周辺の堆積(たいせき)土砂を除去する。また、国が所有する排水ポンプ車の配置要請など緊急に備えたい」とする一方、工事途中の倒産が県民サービスの低下につながるという今回の教訓を踏まえ、受注業者の信用情報の把握により努め、入札や契約時の審査に活用していきたい」と強調した。

【質問】 初期段階の指導や専門的な知識を高める即戦力の技術者養成の教育機関を要望する声が多い。工業系の人材育成のために、山形県立米沢工業高校のような地元企業との連携による専攻科の設置を延岡でできないか伺いたい。

【教育長】 専攻科は高校卒業後、さらに1年から2年間にわたり、より専門的な知識や技術を習得するための課程であるが、設置については、入学生の確保や進路先の開拓、既存の教育機関との関係など様々な課題があると考えている。地域産業界への人材供給は工業教育の重要な目的の一つでもあるので、今後とも工業教育のあり方の検討も含め、充実に向けていきたい。

県病院のご利用について

平成16年に新臨床研修医制度の実施により、これまで地方医療を担ってきた地方自治体の中核病院が全国的に医師不足により、救急医療体制の維持が困難になりつつあります。県立延岡病院は重症患者を受け持つ救急医療施設ですが、実際には軽症の患者が7~8割を占めており、また夜間や休日の時間外に患者が引きも切らない状況です。医師が減少しつつある中、残された医師は人道的な倫理観から無理をしながら昼夜にわたる激務をこなしており、看護師ともども疲弊しています。その上、このような就労環境の悪化により燃え尽きてしまい、医師が去りさらに激務になる悪循環に陥っています。高度な医療や緊急手術を必要とする患者に支障がないよう、軽症の方はお近くの開業医やかかりつけ医での受診をお願いいたします。私ども延岡市選出の県議団も医師の確保に全力を尽くして参りますが、県北地区の中核病院の救急医療体制を維持するため、市民の皆様のご協力をよろしく願います。

医師不足解消訴え 知事へ延岡市区選出県議



県立延岡病院の医師確保を東国原知事(中央)に求める延岡市区選出の県議＝4日午前、県庁知事応接室

相次いで医師が退職している県立延岡病院(橋元志都生院長)について、延岡市区選出の県議五人は四日、東国原知事に対して、医療体制を充実させるよう要望した。慢性的な激務が医師確保を阻害する一因になっているとして、労働

環境の改善を求めた。知事は「最大限の努力をして医師を確保したい」と述べた。

県病院局によると、三月末で内科、外科、神経内科の三人が退職し、派遣元の宮崎大、熊本大に戻った。加えて循環器科の医長が六月末で退職する意向を明らかにしている。三人の後任は医局から補充される可能性が高いものの、循環器科の医長は医局に戻らないため、医局としても新たな医師の派遣が難しい状況となっている。

同病院の休日、夜間の救急患者数は二〇〇六年度に過去最高の八千九百四十六人に上り、〇七年度はさらに上回る見込み。医師不足に加え、本来は対象ではない軽症患者の対応が過酷な労働環境を招く一因となっている。

四日は井本英雄(自民)、太田清海(社民)、松田勝則(愛みやま)、河野哲也(公明)、田口雄二(民主)議員が東国原知事を訪問。「民間病院とのすみ分けを真剣に考える必要がある」(井本議員)、「議員も地元住民に安易な受診を控えるよう呼び掛ける」(田口議員)と訴えた。

東国原知事は「労働環境の改善のほか、新人医師がきたいと願うような指導医の育成にも、できる範囲で取り組みたい」と話した。

活動フोट

道路事情の視察に延岡入りした
管直人民主党代表代行と市民との懇談会
(ホテルメリージュ・2月17日)



管さんとの市民懇談会にご出席の皆さん(2月17日)



県庁見学にお越しいただいた若葉町の
高齢者クラブの皆さんと(2月26日)



ご支援いただいている労働組合の
皆さんと(大瀬川河川敷・3月22日)



視察で訪れた目達原(めたばる)駐屯地
(佐賀県・2月8日)



祝 大瀬橋連結式
平成20年3月29日
開通(本年10月)が待ち遠しい大瀬橋の連結式(3月29日)

**県政
相談**

ご意見・ご要望をお気軽にお聞かせ下さい。
田口雄二 ☎0982-26-1945 携帯 090-5021-7729
e-mail: gucci-yu@ma.wainet.ne.jp